

# ワードの技術をおぼえながら 見やすい文書を作成する

今回は、「ベタ打ち原稿」を元に、ワードの「文字の効果と体裁」、「書式のコピー/貼り付け」、「ドロップキャップ」、「部分的段組み」、「段組みの整え」、「改ページの挿入」、「ページ番号の挿入」など、いくつかの技術を学習しながら、「完成例」のような文書を作成してみましょう。

## 手 順

- ① つながるパソコン講座テキスト 085 から「ベタ打ち原稿」をダウンロードする。
- ② タイトルの「地震に備える」は「文字の効果と体裁」で好みのスタイルを選択し、MS 明朝、60 ポイント、太字 にして中央揃えする。
- ③ 次の 3 行は文字色を好みの色に変更し、MS 明朝、12 ポイント、太字 にして中央揃えする。「～いざという時のために～」以下は MS 明朝、12 ポイントにする。
- ④ 「～いざという時のために～」を MS 明朝、18 ポイント、太字、好みの文字色にしてから、ホームタブの下にある「書式のコピー/貼り付け」をダブルクリックし、「～地震が発生したら～」と「～市の防災対策について～」部分に同じ書式を貼り付ける（書式のコピーを解除するには、「書式のコピー/貼り付け」のアイコンをクリックするか、「Esc キー」を押す）。
- ⑤ 次に、「広域避難場所の確認」から「正しい情報」までのすべての見出しを Ctrl キーを押しながら選択し、文字色を赤にしてから → 挿入 → ドロップキャップ → ドロップキャップのオプションと進んで「位置」を「本文内」、「ドロップする行数」を「2」、「本文からの距離」を「1mm」にして OK をクリックする。
- ⑥ 「～市の防災対策について～」の下部分から「お問い合わせ」の前まで選択してをすべて選択して、ページレイアウト → 段組み → 段組みの詳細設定 で「3 段」をクリック、「境界線を引く」に✓を付けて OK をクリックする。
- ⑦ さらに「消防団」と「ハザードマップの公開」の前にそれぞれ「段区切り」を入れる（ページレイアウト → 区切り → 段区切り）。
- ⑧ 各段の見出しの文字を赤色にし、下線を付ける。
- ⑨ 「～地震が発生したら～」の前にカーソルを置き、ページレイアウト → 区切り → 改ページ をクリックする（以降が次ページに移動する）。
- ⑩ 2 ページ下部に、テキストボックスで「お問合せ」の部分を作成する。
- ⑪ 挿入 → ページ番号 → ページの下部 → 番号のみ 3 をクリック → ヘッダーとフッターを閉じる。
- ⑫ 全体を確認してから、名前を付けて保存する。

# 地震に備える

地震が起こった時、どう対処すればよいのか。

災害に「予告」はありません。

突然の災害に困らないための「備え」の大切さを考えてみましょう。

～いざという時のために～

## 広域避難場所の確認

つね日ごろから家庭や職場の近くの「広域避難場所」を確認しておきましょう。広域避難場所には火の手がおよびにくい場所が指定されています。周囲から火の手が迫ってきた場合は、あわてずに広域避難場所に避難します。

## 避難所の確認

「避難所」も確認しておきましょう。家が倒壊した場合や電気・ガス・水道などのライフラインが途絶して自宅で生活できない場合などは避難所に避難します。ここでは、生活に必要な食料や生活必需品の支給を受けることができます。

## 家屋・室内の準備

寝室やリビングで倒れて下敷きになりそうな危険のある家具を固定するようにしましょう。地震で最大の危険は家屋やビルなどの倒壊です。

## 非常時持ち出し品の準備

ライフラインの途絶に備えて、家庭内に「水」「食糧」「燃料」など最低3日分を備蓄しましょう。その他にも、家族に関する覚え書きや預貯金の控えなども準備しておくといでしょう。

## 水の準備

水の重要性はいうまでもありません。大地震等の災害が起こったときに水道が使用できなくなる可能性は十分にあります。意外に困るのが生活用水です。洗濯や炊事、水洗トイレにも水が欠かせません。生活用水のために、日ごろから風呂のお湯は抜かないで貯めておくといでしょう。井戸も意外と役立ちます。飲料水には適していなくても生活用水として利用するには問題のない井戸はけっこうあります。周辺の井戸を確認しておきましょう。また、同時に水を運ぶためのポリタンク・キャリアなどを用意しておくとい重宝します。

## ～地震が発生したら～

### 身の安全を確保

テーブルや机の下に隠れ、落下物などから身を守りましょう。揺れがおさまったあと、落下物に注意して外に出ましょう。

### 火の始末

火の始末は、火災を防ぐ重要なポイントです。タイミングを間違えるとケガをする恐れもあるので、揺れの大きさを判断して火の始末をしましょう。もし火災が起こったら、大声で近隣に知らせ、隣近所と協力して消火にあたりましょう。二次災害を防ぐのは、初期消火が重要なポイントです。

### 脱出口を確保

建物の歪みや倒壊によって、出入り口が開かなくなる場合があります。扉や窓を開けて脱出口を確保しましょう。

### 家具から離れる

本棚や食器棚などが倒れて大ケガをするばかりか身動きがとれなくなる恐れがあります。揺れを感じたら、すぐに家具から離れましょう。

### ガラスの破片に注意

地震のあと、最も多いケガはガラスの破片などによる切り傷です。はだしで歩き回らずにスリッパなどをはくようにしましょう。

### 応急救護

ケガ人が出た場合は、助けを呼び、隣近所で協力しあって応急救護を行いましょう。また、普段から隣近所との協力体制を作っておくことも大切です。

### 正しい情報

テレビやラジオ、パソコン、携帯電話などで正しい情報を収集しましょう。

## ～市の防災対策について～

### 救命講習の実施

救命講習に参加してみませんか？地震などの災害時に役立つ救命方法を学びます。毎月9日、19日、29日の「9の付く日」に実施（12月29日を除く）

### 消防団

札幌市の消防団は、他に本業を持ちながら「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき、地域の安全と安心を守るために活躍しています。

### ハザードマップの公開

札幌市の各区ごとに土砂災害の危険箇所、避難場所などを掲載したハザードマップ(防災地図)は札幌市のホームページで公開しています。

お問い合わせ 札幌市危機管理対策室危機感対策部危機管理対策課

電話番号：011-211-3062

ファックス番号：011-218-5115